

# 福井県における郷土史研究の動向

## 令和二年度分

本会事務局

福井県立図書館郷土資料グループ編

### はじめに

令和二年度は、世界中がコロナ禍に見舞われ、マスク着用と三密を避ける新生活様式に移行せざるをえない一年となった。すべての文化施設は、休館や開館時間の短縮をし、予定されていた展示も軒並み縮小する事態となった。このような中、県図書館は、非来館型サービスとして、福井藩士約三五〇〇人分の名簿と給与帳にあたる「給帳」をインターネット上で無料公開し始めた。また、明治一九〜二四年の福井新聞の画像公開も開始して話題となった。一方、県立図書館は『福井新聞縮刷版』（昭和五一年一月〜平成二〇年三月分）の記事見出しについてインターネット公開を開始した。

以下、令和二年度に刊行された主な出版物を紹介し、県内郷土史研究の動向とする。なお敬称は略した。

### 一 歴史・自治体史・地域史・史跡調査報告書

北国諒星『福井県と北海道の縁―北海道移民史を中心として―』

（北海道出版企画センター）は、移民史だけでなく、大野藩の蝦夷地での活躍や開拓使としての福井県人にもふれる一冊。狭川真一編『中世墓の終焉と石造物』（高志書院）は、赤澤徳明著「北陸 中世墓の終焉と近世的墓地景観」を、黒田智編『草の根歴史学の未来をどう作るか』（文学通信）は、木村祐輝著『赤淵大明神縁起』の誕生、森石顕著「橋本左内の「建儲」を収める。福井市が刊行した『特別名勝一乗谷朝倉氏庭園保存活用計画書』は、これまでの調査と資料を整理し、庭園を適切に保存活用するための方針等を定めたもの。小浜市教育委員会はすでに作成した保存活用計画書をうけて『史跡後瀬山城跡整備基本計画』を、美浜町教育委員会は『史跡興道寺廃寺跡整備基本構想』を作成した。同教委は歴史シンポジウム『若狭の海辺に築かれし古墳』もまとめている。いき出版『写真アルバム 越前・鯖江・南越の昭和』は、豊富な写真で越前・鯖江両市を含むかつての今立・丹生・南条三郡の昭和をふりかえる。

越前市は『越前市史 資料編3 中世1』を刊行、平安から鎌倉時代までの越前市に関する主な古文書三〇八点を収録した。高浜町は『高浜町史 資料編 古文書』を刊行、室町から明治時代にかけての町内の一六文書群一六九点を紹介する。

福井市森田公民館刊『あなたに伝えたいこと 森田の遺跡編』は、森田地区の三遺跡を紹介する小冊子。小浜古文書の会刊『小浜町会所留書の抜書』は、近世小浜の町人学者木崎惕窓が、町年寄時代に作成した留書等の抜書（写）を翻刻した。小浜市宮川の歴史を伝える会編『わかさ宮川の歴史 追補版』は、一〇年をかけてまとめたも

の。同市泊の歴史を知る会は地区史『泊よいとこ朝日をうけて』を刊行。敦賀市栗野の歴史を語り継ぐ会編『うららん在所 No.2』は、四〇年ぶりに地区の歴史をまとめ直した一冊。あわら市伊井の歴史を学ぶ会『伊井地区の今を伝える 昭和平成から令和へ』は、地区の遺跡や石碑、建物、行事をまとめた。武生古文書の基礎学習会『武生古文書覚 第20集』は、六件の古文書を読み解く。

そのほか主な発掘報告書に、『二上・半田古墳群』（福井県教育庁埋蔵文化財調査センター）、『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告17』『同18』『同19』（福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館）、『敦賀市内遺跡発掘調査報告 2020』（敦賀市教育委員会）、『府中城跡H地点・I地点 越前市埋蔵文化財調査報告05』（越前市教育委員会）、『丸岡城跡 坂井市埋蔵文化財発掘調査報告書』（坂井市教育委員会）、『美浜町内遺跡発掘調査報告書 4』（美浜町教育委員会）などが刊行された。

## 二 目録・人物・ガイドブック

小浜市教育委員会刊『西依家文書目録 小浜藩校関係史料』は、小浜藩校順造館の教授を代々務めた西依家伝来の史料群一二七八点を目録化したもの。南越前町観光まちづくり課編『今庄宿白駒酒造 大門屋京藤長右衛門家文書』は江戸時代より今庄宿で酒造業を営む同家文書の一部を公開し、目録を作成した。

県文書館は『福井藩士履歴9 新番格以下2』を刊行。若狭路文

化研究所刊『大和田日記』は、敦賀港発展に寄与した初代大和田莊七について、新出の日記も含めて翻刻したもの。菅原倫『明智光秀の謎』（つむぎ書房）は、明智宗家の沼田土岐家系図と、光秀と同時代の人物の日記・書状から、光秀の前半生と本能寺の変の事実を紐解く。河村昭一『若狭武田氏と家臣団』（戎光祥出版）は、若狭武田氏の出自から文武・芸能活動までをまとめた一冊。赤尾谷優『福井とゆかりの人々』（文芸社）は、福井ゆかりの人物のエピソードを様々な観点から章立てしたもの。県立こども歴史文化館は『石っ子猪三太』を刊行、「これき人物シリーズ」絵本編の第一弾で、日本近代物理学の基礎を築いた小浜出身・和田維四郎の半生を描く。

県はガイドブック『福井ふるさと百景』を大幅改訂し、掲載写真の一部県民から募った。森塚良郎は『日本の街道地図18福井』を作成、インターネットでも同内容のものを公開している。ことりっふ編集部編『福井』（昭文社）は人気旅行ガイドブックシリーズの一冊。

## 三 各分野団体史

各分野団体史では、福井新聞社『福井から伝える 福井新聞120周年記念』、『朝倉氏遺跡保存協会50年のあゆみ』、福井県立武生高等学校池田分校『閉校記念誌ありがとう池田分校』、『金井学園70年のあゆみ 2009―2019』、『福井県PTA連合会70年史』、福井県バスケットボール協会『創立75周年記念誌』、『歩いてあるい：歓歩30年 福井県ウォーキング協会設立30周年記念誌』などが刊

行された。

#### 四 宗教・経済・民俗

塚原典史『昔このまちで道元が坐っていた』（福井県立大学）は、曹洞宗大本山永平寺の開祖道元禅師に関する研究成果をまとめたブックレット。ぴあMOOK中部編『北陸の御朱印めぐり開運さんぽ旅』は、福井県分として三四社、二寺院を紹介する。

南保勝『福井県企業の「コロナ禍での事業活動に関する緊急調査」結果報告書』同報告書 第二回（福井県立大学地域経済研究所）は、県内企業三〇〇社のアンケートを分析し、コロナ後の産業構造や事業活動の方向性、そのために必要な施策の在り方をさぐる。下地毅『ルポ東尋坊』（緑風出版）は、自殺防止活動を地道に行うNGOを追ったルポルタージュ。

小浜市教育委員会『小浜放生祭総合調査報告書』は、若狭地方最大の秋祭りといわれる「放生祭」の歴史や現在の姿を、県と市が五年をかけて調査した成果の集大成で、国重要無形民俗文化財の指定を目指す。中島美千代『土に還る 野辺送りの手帖』（ふねうま舎）は、死者をいかに遇し、死とどのように向き合うかを考えるため、今も残る野辺送りの習俗をたずねる。

#### 五 自然科学

出口翔大『足羽三山トリペディア』（福井市自然史博物館）は足羽三山で記録のある一〇七種の鳥類目録。『福井県年縞博物館解説書』は、水月湖の年縞の発見秘話や、学術的意義を豊富な写真やイラストで分かりやすく紹介する。『るるぶ福井県立恐竜博物館』（JTBパブリッシング）は、単独の博物館をテーマとした初めてのガイドブック。大森治幸『恐竜を追えー「王国」福井30年の歩みとこれから』は、毎日新聞のインターネット版に同タイトルで連載したものに加筆修正している。

#### 六 工業・土木・建築

たたら製鉄遺跡保存会『あわら市たたら製鉄遺跡の案内』は、令和元年に遺跡ミニパークがオープンした記念に作成された。眼鏡メーカーのプラスチックは、眼鏡の製造過程を子ども向けに紹介した絵本『めがねづくりのこびとさん』を発刊。はたや記念館ゆめおれ勝山刊『麻の糸・布と腰機』は、弥生時代に使われていたとされる「腰機」についてまとめたもの。

福井工業大学建築土木工学科市川研究室『研究資料 福井県戦後建築史』は、県建築士会の機関誌にみる戦後建築作品の変遷を追う。佐伯哲也『越前中世城郭図面集 2 越前中部編（福井市・越前町・鯖江市）』は、筆者が調査した中世の城郭五二城について詳細な平面図を掲載。同じ著者の『朝倉氏の城郭と合戦』（戎光祥出版）は、朝倉氏の築城のあり方を分析し、本拠・一乗谷城と市城群をはじめ五一

城を掲載した。

## 七 産業・芸術・言語・文学

中村治『若狭街道と鞍馬』（大阪公立大学共同出版会）は、明治期の若狭街道の中継地・鞍馬について考察する。西脇恵『よみがえる記憶北陸の鉄路』（中日新聞社）は、六〇年にわたり撮り続けた北陸三八路線（廃線含む）一万カットの写真から、選び抜かれた五〇〇枚をエピソードとともに収録したもの。福井県立大学は研究をより広く知ってもらおうと、研究成果をまとめたブックレットを創刊。第1巻の『水産増養殖と環境まちづくり』は、県内養殖魚ブランドの取り組みなどを紹介している。

高浜町は昨年作成したオリジナル絵本『はらぺこシジミ』の続編『はらぺこシジミひみつのビーチ』を発刊。

間海幸洋『安島方言集』は、三国安島地区の方言集のほか、安島の屋号や「なんぼや踊り唄」も収める。

京都大学人文科学研究所『桑原武夫の世界』は、県ふるさと文学館が開催した企画展の記録とともに桑原の業績をたどる一冊。青山雨子は『朝鮮と則武三雄』を上梓。則武は、現代詩作家・荒川洋治をはじめ、多くの福井の詩人たちに大きな影響を与えた詩人で、巻末の一〇〇頁を超える年譜も貴重な一冊となっている。

## 八 歴史研究施設の動向

最後に各施設の主な特別展を紹介する。県文書館は「給帳ってなんだ？―福井藩士の名簿―」「剛明果決の人 長谷部甚平」「職員録だつて歴史資料なのです」、県立歴史博物館は「天下人の時代―信長・秀吉・家康と越前―」「写真展 「福井駅前」 メモリアル―明治から令和へ―」、県立若狭歴史博物館は「金色の煌めき―金に彩られた若狭のたから―」、一乗谷朝倉氏遺跡資料館は「重要文化財は語る 城下町のくらし」、県立美術館は「初公開 犬追物図屏風と江戸絵画名品展」「テレビアニメーション創成期から現在までの50年」、県立こども歴史文化館は「石ものがたり―ふくいが生んだ鉱物学者たち―」、福井県年縞博物館は「シマシマが語る46億年の歴史」、若狭三方縄文博物館との合同企画展「古代エジプト文明―気候変動と水辺の民―」、福井市立郷土歴史博物館は「北陸の古刀」、敦賀市立博物館は「ふつうの美しさ―京の絵画と敦賀コレクション―」をそれぞれ開催。なお、みくに龍翔館は改修工事のため令和五年春ごろまで長期休館に入っている。

以上、個人史、抜刷など割愛した資料や、遺漏についてはお許しいただきたい。